奄美の風だより

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

春号　vol 1
NO.　4
2001.　5.　1
ANC; News Letter

「アマミセイシカ」

『　アマミセイシカ　』

２００１.３月～４月
住用村にて（右写真）

山の木々に新しい芽がたくさんでてきました。深緑の山肌がだんだん若葉色(黄緑色)へと変わってきました。陽ざしも風も“ふんわり”とした暖かさです。一年中温暖な気候の奄美諸島ですが季節の変化を感じます。

生きものたちも活動的になりました。春は繁殖の時期でもあるので活発です。山にかぎらず，里の方でもたくさんの小鳥がﾋﾟｨｰﾁｨｸ，ﾁｨｯﾁ，ｷｭﾙﾙﾙ･･･と，合唱でもしているかのようにとても賑やかです。近くの山からはアカヒゲの美しいさえずりやズアカアオバト，アカショウビンの鳴き声も盛んに聞こえてきます。カエルの鳴き声も聞こえます。

植物もたくさん花を咲かせています。道路沿いや畑などに生えている雑草にもしろやピンク，むらさき･･･と，小さくてかわいい花々がたくさん咲いています。普段はあまり気にとめない雑草ですが，ひとたび開花すると「かわいいでしょｯ！ みてみて」といっているかのように，自己主張しているように見えます。可憐な花々にはアゲハチョウやシロチョウなどの蝶々たちが甘い蜜を求めて集まってきます。

天気の良い日には自然の中へでかけてみませんか。たくさんの生きものに出会えることでしょう。人間の世界,野生の世界，人間と野生の生きもの，春は出会いの季節です。

「　ズアカアオバト　」

「公園に咲くﾋﾙｻﾞｷｯｷﾐｿｳ」

「ｼﾛﾁｮｳｿﾞｳの密を吸うｼﾞｬｺｳｱｹﾞﾊ」

「リュウキュウマツの新芽」

お知らせ

☛『奄美の蝶の不思議展』開催中！！

期　　間：平成１３年４月２８日（土）～ 同年５月３１日（木）
開催場所：奄美野生生物保護センター「企画展示室」

奄美野生生物保護センターがオープンしてから平成１３年４月２９日（みどりの日）で１年になります。そこで，センターと協議会の共催で，センターオープン１周年記念として企画展「奄美の蝶の不思議展」を上記期間中に開催しています。同企画で 29 日に奄美の蝶について講演していただいた「森川義道」先生（日本蝶類学会会員）のご協力をえて，奄美に生息する 79 種のうち土着種と迷蝶をあわせ約 40 種について標本 180 点，写真やパネルなど約 50 点を展示しています。標本ではアゲハチョウやオオゴマダラ，迷蝶で深い紫色の羽をもった美しいツマムラサキマダラなど，写真やパネルではアカボシゴマダラの卵から幼虫を経て羽化するまでの経過など紹介しています。普段よく見かける蝶から珍しい蝶まで，奄美の蝶の魅力がいっぱいの展示会となっていますので，是非みなさん，奄美野生生物保護センターへお越しください。

☛地域紹介コーナー掲載予定について

次号（第５号）のニュースレターで紹介する地域は「**徳之島町**」です。今年度発行する第５号以降の予定は下記のとおりです。原稿をご依頼する際に再度文書にてお知らせいたします。よろしくお願いします。

ﾆｭｰｽﾚﾀｰ No	発　行　年　月	原稿提出締切予定日	紹介地域名
第５号(夏号２)	平成 13 年　8 月初旬	同年　7 月 26 日	徳　之　島　町
第６号(秋号２)	平成 13 年 11 月初旬	同年 10 月 26 日	宇　検　村
第７号(冬号２)	平成 14 年　2 月初旬	同年　1 月 26 日	龍　郷　町

協議会活動報告

◆初主催“第１回講演会”を開催しました！！

演　　題：『奄美の森にすむ生きものたち～爬虫・両生類～』
講　　師：千　石　正　一　先生（財団法人　自然環境研究ｾﾝﾀｰ）
開催日時：平成13年３月４日（日）午後1:３０～4:００
場　　所：大和村「体育館」（大和村思勝）

【　講演会のようす　】

協議会設立１年目の大きな催しとして，テレビ番組「どうぶつ奇想天外」でおなじみの千石正一先生に豊かな奄美の森の生きものの中からトカゲやカエルなど，爬虫類と両生類をテーマに講演をしていただきました。当日は，子供から大人まで７４１名と，加計呂麻島などの遠方からもたくさんおいでくださいました。ありがとうございました。

講演会では，ビデオやスライドを使って本土と琉球列島それぞれの爬虫・両生類のちがいや特徴，そして分布，世界の動物地理区とそこにすむ代表的な生きものたちを挙げながら，奄美に多様な生きものが分布する背景や島という独立した環境によって亜種化，また別亜種化しているハナサキガエルやアオカナヘビ，シリケンイモリ，イボイモリ，オットンガエル，イシカワガエルなどの形態や生態的な特徴についてお話ししました。固有種オットンガエルは前足の指が5本（普通４本）あり，その指が鋭い棘になっています。千石先生によると，この５本指というのは「国際的にもちがったカエルで，マダガスカルでは記念切手になっている」とその特異性を強調しました。その他生態系のかく乱の事例としてハブとサキシマハブの雑種の発生や野生化したネコによるカエル類の補食などあげ，最後に「もともと奄美にネコやマングースはいなかった。後からやってきた生きものが自然をかく乱することはよくない」と話されました。講演後は，小学生を中心に「アマミノクロウサギは何匹いるのか」,「ヤスデを食べる虫はいるか」,「ハブに味覚はあるのか」等々…活発な質問がありました。休憩時間や講演会終了後には，たくさんの子供達が千石先生を取り囲んで握手やサインを求めていました。奄美でも大人気の千石先生でした。

【　講演会のようす　】

【　講演会掲載記事　】

◆平成１３年３月５日南海日々新聞

◆平成１３年３月１３日大島新聞

◆平成１３年２月２７日南海日々新聞

地域コーナー紹介

和　泊　町

（ 笠石海浜公園 ）

和泊町は，沖永良部島の東北部に位置し，年平均気温２２度，亜熱帯の花々が咲き乱れる人情味豊かな町です。私たちのお薦めする散策ポイントは，太平洋側にある町民が集う「笠石海浜公園」です。笠石の名前の由来は，海岸にある大きな岩が見る位置によって笠に似ているので名付けられたものです。公園内には，太平洋を一望できる百合の花に似せた展望シンボルタワーや公園沿いの白い砂浜，熱帯魚がたわむれる青い海，キャンプ場，野外ステージ，芝生広場に年中咲き乱れるフラワー園，子供達に大人気のグラススキー等，和泊町に来て，時間がゆっくり過ぎていくのを感じたいなら笠石公園へ。　　（和泊町・協議会担当）

§ 笠石海浜公園散策コース §

◆◆◆このコースで見られる主な野生生物◆◆◆

植物	永良部ユリ	グラジオラス	フリージア
	ブーゲンビリア	ソ　テ　ツ	ペチュニア
動物	ﾘｭｳｷｭｳｱｻｷﾞﾏﾀﾞﾗ	リュウキュウムラサキ	ツバベニチョウ
	カワハギ（魚）	タツノオトシゴ	ハリセンボン

奄美野生生物保護センター

前任の“西村　学”自然保護官の後任に“阿部愼太郎”自然保護官が着任しました！！

－　阿部さんよりセンターについて紹介　－

今年の一月に省庁再編とともに異動で奄美野生生物保護センターに着任した阿部といいます。前任の西村同様、よろしくお願いいたします。センターでは私のほかに事務補佐員の里　美咲さん、奄美自然体験活動推進協議会事務局の畑島理穂子さんに支えられながら、なんとか頑張っています。

奄美野生生物保護センターは、北海道の釧路湿原から沖縄県の西表島まで、全国に８カ所ある環境省が設置した野生生物保護センターのひとつです。野生生物保護センターの役割は、まだまだ不明な点が多い動物たちについて調べることと、これまで分かっていることや調査の結果得られたことをみなさんに知っていただくことです。

奄美諸島の島々はその成立の過程から、まだ地球上にヒトという生きものもいなかった古い、古い時代に栄えた動物たちが取り残された地域です。世界的に見ても非常に重要な島々であり、なんとか奄美のすばらしい自然とそこに息づいている多様な生きものたちを後生に残していかなければなりません。一方で私たち人間の暮らす島でもあります。私たちは便利さや快適さを追求してしまいがちですが、そのために住みかを失ってしまっている野生生物も少なからずいるのです。

現在、奄美野生生物保護センターでは、奄美に生息する希少な野生生物のうち、絶滅の恐れのあるアマミヤマシギとオオトラツグミの２種の鳥類について、保護増殖事業を昨年度から着手したところです。ただ、これらの生存が危ぶまれる種でさえも、その行動や生態についての情報は非常に少ないのが現実です。そこで、まずはこれらの野生生物がどの様な状態にあって、何が原因で数が少ないのか、どのような環境が生息に適しているのかなどについて調査を行っています。

一方で、マングースのような本来奄美に生息していない種（移入種）が、人間の手で持ち込まれて大きな問題になっています。奄美の島々で希少な生きものたちが現在でも生息しているのは、ひとつにはハブ以外にマングースのような捕食者がいなかったからだろうと考えられています。平成８年から

１１年までの調査の結果、在来の生きものたちに与える影響が大きいと考えられることから、昨年度から本格的駆除に着手したところです。昨年度は2,800 頭余りのマングースを駆除しましたが、今後も、奄美大島を本来の環境にもどす努力を続けなければなりません。

このような希少動物の調査や移入種の駆除などは、島に住む多くの方々の協力なしにはできません。多くの方々のご協力を仰ぎながら、なんとか奄美のすばらしい自然をみんなで残していければと考えています。

センターには展示施設もあります。黒潮の流れにのって与論島から沖永良部、徳之島、奄美大島から喜界島まで、島ごとに独特な自然生態系とそのなかでうまく共存してきた私たち人間の営みを紹介しています。さらに「生きもの情報マップ」といって、生きものに関するいろいろな情報を集めています。この協議会の季刊誌「奄美の風だより」にも毎回掲載されているものです。いつ、どこで、何を見たかなどの情報をどしどしお寄せいただきたいと思います。現在のところ奄美大島が十分というわけではないのですが、大島以外の情報が非常に少ない状態です。それぞれにお住まいの地域の身近な情報をどしどしお寄せください。このようなひとつひとつの積み重ねが、生きものごとの生息状況の把握や、奄美の自然を体感するために島々を訪れる方々への情報源にもなります。また、展示のほかにも講演会や自然観察会なども企画していきたいと思います。いままでは奄美大島でしか開催できていませんが、今後は少しずつではありますが、ほかの島々でもいろんな催しができればと考えています。

皆さんがあってのセンターです。私たちもまだまだ分からないことばかりですが、皆さんにいろいろと教えていただきながら、様々な活動を通して、人と自然がうまく共存していける方向性を共に考えていきたいと思います。センターへも是非一度足をお運びください。

【　来館者のようす　】

身近な生きもの情報

野生の生きもの観察日記

§２００１．４．１０（火）　大和村役場に珍客が飛来･･･。

午前１０時頃，役場２階の企画課横にある湯沸室で水を飲んでいる珍客を女子職員が目撃！！その珍客とは･･･『**リュウキュウコノハズク**』である。ちょうど窓から侵入したところを目撃したようで，窺っていると流し台で水を飲んでいたらしい。山の近くに住む者ならば誰もが耳にしたことがあるだろう。夜の静けさのなか，ひときわ響く声。山の方から「クﾌｯ，クﾌｯ，･･･」（または「**コﾎｯ，コﾎｯ･･･**」）という声を響きわたらせている正体は『**リュウキュウコノハズク**』である。昼間は目を閉じて「じっと」しているという夜行性だが，昼間にしかも建物のなかへ飛来するとは珍しい。きっと役場裏山の住民なのだろう。近くに水飲み場がなくしかたなく手っ取り早い目の前の我が職場を訪れたのだろう。珍しい訪問者だったので記念撮影をして自然の中へ元気にお帰りいただいた。ちなみにリュウキュウコノハズクは，全長20㎝，日本で最も小さいフクロウの仲間で奄美大島以南の琉球列島にかけて生息しているということである。**（協議会:中島）**

§２００１．３．３０（金）～４．１９（木）「オーストンオオアカゲラ」が巣穴に･･･

昨年のちょうど今頃，奄美フォレストポリスのキャンプ場内の林にオーストンオオアカゲラが巣穴を作っていました。途中カラス等にじゃまをされ，巣穴で生活をスタートさせる前にいなくなったそうです。そしてこの巣穴をねぐらにでもしようと考えたのか，リュウキュウコノハズクが入り込んで穴から抜け出せなくなったという珍しいエピソードがありました。その巣穴に今年，同じ㋆オーストンがすみついていました。しばらく巣穴をうかがっていると･･･，時々巣穴からﾁｮｺｯと顔をのぞかせては引っ込めたり，周りをｷｮﾛｯ，ｷｮﾛと見渡したりしていました。そして林の中へ飛び出していきました。林内を探すと，私たちの気配を感じては別の木に飛び移っていきました。翌日見に行くと巣穴にはおらず，樹皮をくちばしでつつきながら中の虫を食べていました。4／19は，巣穴から出てきませんでした。キャンプ場の管理人さんのお話だと何時間かおきにオスとメスが交互に巣から出ているようで，どうも巣穴では卵を温めているような感じだということでした。今後もこのオーストンを観察したいと思います。ひなが誕生してくれるとうれしいのですが…。（協議会：畑島）

◆奄美大島情報（寄せられた情報の一部です）

春に見られる野生生物

※参考文献：琉球弧野山の花図
：図鑑奄美の野鳥
：山渓ﾊﾝﾃﾞｨ図鑑７

【オーストンオオアカゲラ】キツツキ目キツツキ科，天然記念物（留鳥）全長２９㎝
生息分布:奄美大島，　オオアカゲラの分布:奄美大島以北　方言名:キィーツキャ

オオアカゲラの亜種。日本には４亜種がいる。照葉樹林に依存して生息しており，老木や枯れ枝を強靭なくちばしで突いて樹皮の中にいるカミキリムシの幼虫などを食べる。また，イタジイやホルトノキなどの木の幹に穴を掘り子育てをする。繁殖期には枯木などをくちばしで連続的に突いてﾄﾞｳﾗﾗﾗ・・・と音をだす，ドラミングと呼ばれる行動をよくする。オオアカゲラの亜種は，南へ行くほど羽色は黒っぽくなり，胸の縦斑も太めにはなるが識別は難しい。しかし，奄美大島の亜種オーストンオオアカゲラは，他の亜種に比べて全体が極端に黒っぽく，はっきりとちがい，最も大きい。オスは頭頂部が赤色で，メスは黒色。個体数が少ないため絶滅危危惧種に指定されている。

生息時期:１月～１２月

鳴き声：キョッ キョッ（ｹｯｹｯ），「キョッ（ｹｯ）」と1声ずつ区切って鳴く。
ドラミングの音は大きく，「ﾄﾞｳﾗﾗﾗ・・・」と聞こえる。

【アマミシジュウカラ】スズメ目シジュウカラ科　（留鳥）　全長１４．５㎝
生息分布:奄美大島，加計呂麻島，請島，与路島，徳之島　シジュウカラの分布:日本全国

全国的に生息しているシジュウカラの亜種。原生的な森林から里山まで幅広く生息している。ほおの周りや頭上が黒いので，ほおの白さが目立つ。また，のどから腹にかけてネクタイのような１本の黒い縦すじがあるのが特徴。この黒いネクタイの幅が太いのがオスで，細いのがメス。幼鳥はほおや腹の白い部分がほのかに黄色味をおびている。木の枝や葉についている昆虫類を探して食べる。木のウロなどに巣をつくり，7～8個の卵を産み育てる。また，巣箱をよく利用することも知られている。繁殖期以外は小群で生活することが多く，メジロやヤマガラなどと一緒に群をつくって地上の付近で餌を探していることも多い。繁殖期にオスは枝先にとまって「ﾂﾋﾟ ﾂﾋﾟ ﾂﾋﾟ・・・」などとさえずる。

生息時期：１月～１２月

鳴き声：ﾂﾂﾋﾟｰ ﾂﾂﾋﾟｰ，ﾁｭﾋﾟｰ ﾁｭﾋﾟｰ，ジュルルルルなど

【 ズアカアオバト 】 ハト目ハト科（留鳥）　全長３５㎝　方言名：オーバト

生息分布：奄美群島（全域），　アオバトの分布：　日本全国

アオバトの亜種リュウキュウズアカアオバトで暗緑色のハト。屋久島から奄美諸島や沖縄諸島に生息する。くちばしはコバルト色で，のどから胸にかけて少し黄色味をおび，おしり付近には淡い黄白色に暗緑色のうろこ模様がある。宮古，八重山地方に生息する別亜種のチュウダイズアカアオバトはリュウキュウズアカアオバトに比べて体が一回り小さく，羽色のちがいはみられない。鳴き声が尺八の音に似ていることから尺八鳥とも呼ばれている。

生息時期：１月～１２月

鳴き声：ポーポーヘポー，ウーーウォウーウなど

【 アマミセイシカ 】 ツツジ科

分布：　奄美大島固有

奄美大島の固有種。山地の渓流沿いに生える常緑小高木で，高さ2～３ｍに達する。葉は革質で枝先に集まり，長さ7～１５㎜の葉柄があり葉身は狭長楕円形。花は枝先に1～4個束生し，花冠は淡桃白色で上側内面に淡黄緑色の斑点がある。石垣島以南に分布するセイシカは，葉は長楕円形でやや幅広く先は短く尖り，花は淡桃紫色で上側内面に紅紫色の斑点。

【 シャリンバイ 】 バラ科

分布：本州（宮城県・山形県以西）・四国・九州以南

海岸崖地～やや内陸部の尾根筋などに生える常緑低木で，葉は暗緑色で光沢があり，裏面は茶白色で透かすと細かい網脈がよくみえる。花は白色で芳香があり，果実は球形で黒紫色に熟す。樹皮や材はタンニンを多く含んでおり，大島紬の染料に用いられる。また，街路樹や庭園樹としても多く用いられる。和名は葉が枝先に輪生状にでて葉が梅の花に似ることによる。

【 リュウキュウバライチゴ（オオバライチゴ） 】 バラ科

分布：本州（房総・伊豆・紀伊半島及び山陽地方），四国，九州以南

低地～山地の日当たりのよい林縁や原野に生える落葉小低木で，茎や枝には棘を散生し，暗紅色の短腺毛を密生。葉は奇数羽状複葉で3～5個の小葉からなり，花は白く，花枝は短く１～3花をまばらにつける。果実は球状または卵円形で紅紫色に熟して食べられる。

a 第５６回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」の
キャッチフレーズ　＆　シンボルマーク　決　定！！

平成１４年５月に奄美大島の笠利町（アマミパーク）で開催を予定しています「第５６回全国野鳥のつどい」のキャッチフレーズとシンボルマークがきまりました。多数の応募の中から，奄美大島をはじめとする本県の豊かな自然や野鳥についてさわやかにイメージさせる作品ということて下記の２作品が選ばれました。

キャッチフレーズ

聞こえるよ

鳥のさえずり　胸の高鳴り

吾平中学校３年・北之園太郎さん

シンボルマーク

三重県
山北敏比幸（としひこ）さん

a お　願　い

ヒナを拾わないで･･･。
ひとりでいても迷子じゃないよ！！

おかあさんっ，
どこにいるの？

この時期，もうすぐ巣立とうとするヒナは，衝動的に巣から飛び出してしまったり，何らかの原因で巣から落ちたりすることがあります。ヒナは未熟なうちに巣を離れ，巣の外で親の世話と教育を受けているそうです。たいてい近くに親がいてヒナを見守っていますが，人の姿におびえてかくれてしまうそうです。森や林など身近でヒナを見つけたら「かわいそう」だからとか，この時期のヒナを迷子だと勘違いして拾って持ち帰ることは，人間がヒナを連れ去る『誘拐』と同じことだと専門家はいっています。ですからヒナを見つけたら拾わずそうっとしておいてください。ネコや車など危険が多い場所でも野鳥たちは巣を作りますので，心配かもしれませんが親鳥に返すことが一番いいそうです。ヒナを拾った人を見かけたら，是非教えてあげて，すぐにもとの場所に戻してあげてください。

編　集　後　記

例年より４日ほど早い梅雨入りをしました奄美地方ですが，みなさんいかがお過ごしでしょうか。Ｇ・Ｗまでは雨が多かったのですが，天気の良い日が続いています。こんな日には外出したくなるものです。冒頭でも述べましたが，春は生きものたちが活発になる時期で，たくさんの生きものに出会うことができます。先日も自宅の庭でキノボリトカゲやメジロ，シジュウカラを，近くの山ではズアカアオバトやオーストンオオアカゲラを目撃しました。
耳からも生きものたちの鳴き声が盛んに入ってきます。とてもよい季節です。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

□　〒８９４－３１９２
鹿児島県大島郡大和村大和浜１００
大和村役場　企画課
ＴＥＬ：　０９９７－５７－２１１１

□　（連絡・書類等送付先）
〒８９４－３１０４
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑５５１
奄美野生生物保護センター内
ＴＥＬ：　０９９７－５５－８６２０
ＦＡＸ：　０９９７－５５－８６２１